

MFYニュース2009年度 前期号

発行 2009年10月吉日
E.カニングハム記念
(社)青少年音楽協会

青少年音楽協会会員の皆様へ

記念すべき創立 70 周年の年も半分過ぎ、6 つの行事が無事に、またその一つ一つを記念に相応しい内容のある催し物にすることが出来たと自負しております。これも会員の皆様、また沢山のご支援下さる方々のお陰と感謝いたしております。

ここに写真と共に前半のコンサートのご報告をいたします。

今後もカニングハム女史の遺志をどのように生かしていくかを模索しつつ、行事の企画を進めて参りますのでよろしくご協力お願い致します。

MFY 理事・職員一同

青少年音楽協会創立 70 周年記念レセプション

4月17日(金) 17:00~20:00

MFY サロン

会員や各方面でお世話になっている方々、理事、ボランティア、そして生前カニングハム女史の秘書として青少年音楽協会を支えて下さった方々もご参加くださり、創立 70 周年を祝うレセプションが行われました。

信念を曲げず頑固に仕事を進められたカニングハム女史の懐かしいお話や、これからのMFYの仕事への激励のお言葉も沢山戴くことが出来ました。また、木村りえ、りさ姉妹のピアノ演奏も行われ、和やかな夕べとなりました。



↑三石精一会長の挨拶

木村姉妹の演奏↓



第 56 回チャペルリサイタル

5月17日(日) 15:00

聖アンデレ教会

《出演》

ソプラノ独唱：池田サラジェーン

ピアノ伴奏：岩城美智子

ソプラノ独唱：上田喬子

ピアノ伴奏：小川久美子

【特別出演】

アルトサクソフォン独奏：宮里隆太郎

ピアノ伴奏：坂巻明子

視覚に障害のある若い音楽家たちを応援する演奏会です。

明るく美しい礼拝堂に若々しい歌声が響きました。また、特別出演のサクソフォン独奏では、『春の海』や『さくらさくら』など日本の曲も宗教曲でもとても豊かな表現力の演奏を聴かせてくれました。



🎵 創立 70 周年記念ヤングピープルズコンサート『世界の国々を音楽で結ぼう』

6月20日(土) 14:00

学習院創立百周年記念会館

《出演》

指揮・解説：三石精一

オーケストラ：東京ニューシティ管弦楽団

バレエ：サイガバレエ

会場ロビーに古い写真を数枚展示しました。その中の一枚に 70 年前の 1939 年青少年音楽協会が誕生したその年に開催された第 1 回目の日比谷公会堂で行われた“青少年のためのコンサート”の舞台の写真がありました。当時の若者たちの感動が伝わってくるようです。御来場の大勢の方が見てくださり、“ここから始まり今日のコンサートに繋がっているのか”という感慨を持って下さったように思われ、嬉しいことでした。

今回創立 70 周年に相応しく盛会となりました。“分かりやすく自然と興味を持てるような解説で、どの曲もとても楽しく聴くことができた”“バレエもとても美しく感動しました”などの感想を多くの方から戴くことができました。またアンコールで筑波大学附属聴覚特別支援学校小学部の 2 年生 11 名がリズムカルな踊りを見せてくれたのも感動的でした。



指揮：齋藤秀雄 1939 年 6 月 17 日（日比谷公会堂）



🎵 サマーコンサート『チェロとヴィオラのコンサート』

8月21日(木) 14:00

軽井沢ハーモニーハウス

《出演》

ヴィオラ：林徹也

チェロ：イナ・シュリューター

チェロ：吉村隆子

MFYの賛助会員である(財)日本ソルフェージュ振興会との協賛特別企画としてサマーコンサートを行いました。緑に包まれたさわやかなハーモニーハウスのホールに続々と大勢のお客様が集まり、大盛会となりました。木造の落ち着いたホールに弦の響きがこんなにしっかりと合うものかしらと思えるような、ゆったりとした素晴らしい時を過ごすことができました。



2つのサロンコンサート

♡『E.サティと歩くパリ』

5月17日(日) 17:00

MFYサロン

《出演》

ピアノ：島田璃里

ゲストピアノ：山口博史

ダンス・給仕：木室陽一



サティのお誕生日当日に合わせた島田璃里さんのコンサートも3回目を迎えました。サロンをパリのカフェに見立て、ワイン、シャンパン片手にゆったりとサティの音楽を味わいました。

木室陽一さんの給仕兼パフォーマンスは不思議な空間をつくり、雰囲気盛り上げ喝采をあげ、楽しいひとときとなりました。

♡子どものためのサロンコンサート『ともともガラクタコンサート』

9月26日(土) 15:00

MFYサロン

《出演》

山口とも



何でも楽器にしてしまう山口ともさんがまず子どもたちの前で演奏したのは、水道管を長短に切って束ねた楽器でした。次に“楽園”と題したドラマのある曲で、波の音、鳥の羽ばたき、鳥の声、動物の声、風の音、雨の音、雷、などが音で表現され、その音は壊れた半分の太鼓に小豆が入れられたものや、団扇に豆、傘、棒切れなどなど、思いがけない手づくり楽器で演奏されました。子どもも大人もその幻想的で不思議な音の世界に吸い込まれてしまいました。

参加者全員での新聞紙合奏や、最後にそれぞれが作ったペットボトルのマラカスを両手に持ち“ドレミの歌”や“さんぼ”の歌に合わせて部屋中行進しました。

本当に楽しい『子どもの世界 (大人も一緒に)』が繰り広げられました。